

2023 年度

自己点検・自己評価結果報告書

2024 年 3 月

ベルランド看護助産大学校

学校評価委員会

## はじめに

自己点検・自己評価の目的は、教育の質の保証及び水準の向上、教職員の学校運営に対する意識啓発、社会への説明責任を高めることである。

本校では、2014年に自己評価を実施、2015年には学校関係者評価委員会を立ち上げ、学校の評価委員会による学校評価、その結果に対しての学校関係者委員会からの助言提言の実施を継続し、その結果をホームページで公表している。またその他の学校評価の一連の取り組みを通して学校運営の改善を目指すPDCAサイクルは整ってきている。今回は自己点検・自己評価が低下した2021年度から比較し、その変化から取り組みと課題を分析し、報告する。

対象：教職員 29名（学校長を除く）

調査期間：2023年11月25日～2023年12月28日

調査方法：学校WEBシステム教職員ネットワークを用い、無記名にてデータを入力する。データ入力後は、個人が特定できないように保存し、学校評価委員会でデータを取り扱う。専任教員か事務職員の属性と所属について回答するが個人を特定しないことを条件とし依頼した。

評価尺度：4＝適切 3＝やや適切 2＝やや不適切 1＝不適切 わからない の4尺法

\*評価したその理由と改善の提案を自由記載

有効回答数：事務職 6名(100%)

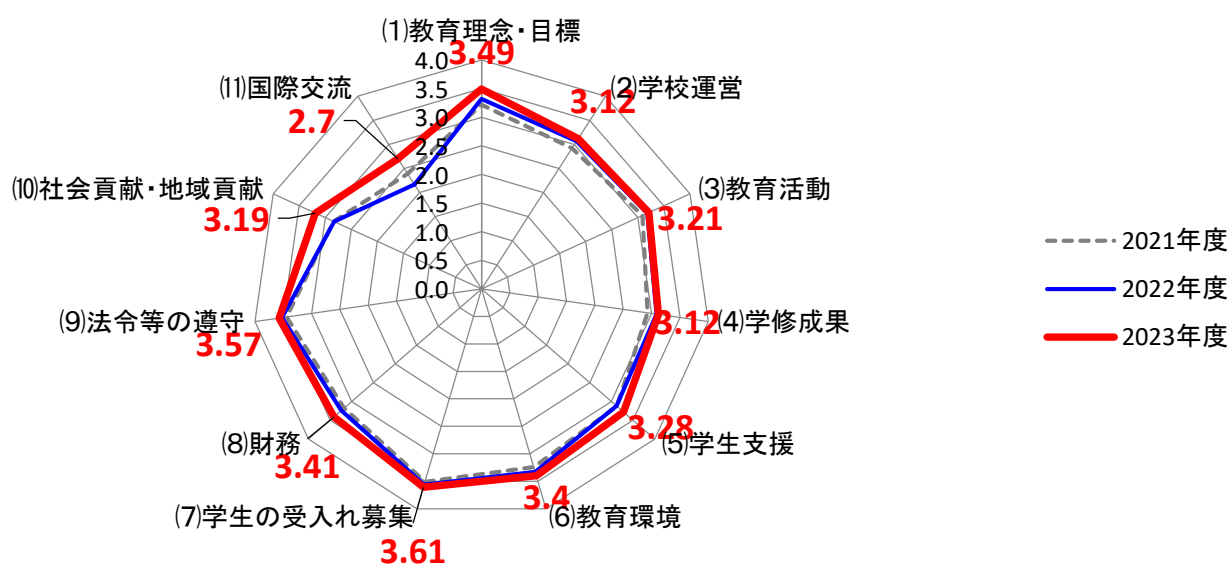
助産学科専任教員 3名(100%)

高度専門看護学科専任教員 20名(100%)

## 全体結果

	大項目別平均			前年度比
	2021年度調査	2022年度調査	2023年度調査	
(1)教育理念・目標	3.22	3.32	3.49	105.12%
(2)学校運営	2.92	3.07	3.12	101.62%
(3)教育活動	3.09	3.18	3.21	100.94%
(4)学修成果	2.93	3.09	3.12	107.97%
(5)学生支援	3.13	3.12	3.28	105.12%
(6)教育環境	3.24	3.33	3.40	102.10%
(7)学生の受入れ募集	3.51	3.56	3.61	101.42%
(8)財務	3.18	3.24	3.41	108.40%
(9)法令等の遵守	3.44	3.52	3.57	101.42%
(10)社会貢献・地域貢献	2.84	2.83	3.19	112.72%
(11)国際交流	2.39	2.17	2.70	124.42%
全項目平均	3.08	3.13	3.28	104.85%

## 自己点検・自己評価の比較



全体結果：全体の平均値は、2021年度 3.08、2022年度 3.13、2023年度 3.28 であった。

2021年度の最低評価点より上昇し、2022年度との比較でも 104.85%上昇した。

<大項目別の比較>

11項目全ての評価が上昇した。3.5以上の高評価は、(7)学生の受入れ募集 (101.42%)、(9)法令等の遵守 (101.42%) であった。評価点が3 (やや適切) 未満であったものは(11)国際交流 (124.85%) であるが大きく上昇した。

<小項目の比較>

65項目のうち評価が上昇した小項目は45項目であった。

(うち 0.3ポイント以上上昇)

① 5*)適宜見直し	前回の 2.95 から 3.36 へ(前回対比 113.90%)
② 9)人事、給与に関する制度の整備	前回の 2.65 から 2.95 へ(前回対比 111.86%)
③ 26)最先端の知識技能習得のための取り組み	前回の 2.73 から 3.04 へ(前回対比 111.20%)
④ 33)進路・就職に関する支援体制	前回の 2.96 から 3.31 へ(前回対比 111.84%)
⑤ 45)防災に対する体制は整備、適切に運用	前回の 3.08 から 3.52 へ(前回対比 114.20%)
⑥ 57)教育資源や施設を活用した社会・地域貢献	前回の 2.59 から 3.19 へ(前回対比 123.26%)
⑦ 58)学生ボランティア活動を奨励、支援	前回の 3.23 から 3.57 へ(前回対比 110.57%)
⑧ 60)海外研修派遣・海外教育機関との連携	前回の 2.14 から 2.80 へ(前回対比 130.84%)
⑨ 61)国際交流の受入れ・派遣について手続き	前回の 2.07 から 2.71 へ(前回対比 131.12%)
⑩ 62)学習成果が国内外で評価される取組	前回の 1.88 から 2.33 へ(前回対比 124.11%)
⑪ 63)学内で適切な体制が整備されている	前回の 2.61 から 2.9 へ(前回対比 112.93%)

評価が低下した小項目は20項目であった。

(うち0.3ポイント以上下降)

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| ① 23)資格取得の指導体制、体系的な位置づけ | 前回の3.55から3.23へ(前回対比90.91%) |
| ② 29)資格取得率の向上が図られているか   | 前回の3.7から3.36へ(前回対比90.73%)  |
| ③ 54)個人情報に関し、その保護のための対策 | 前回の3.62から3.25へ(前回対比89.78%) |

### (1) 教育理念・目標

教育理念・目標の大項目平均は、3.32から3.49の前年対比105.12%であり、小項目もすべての評価が上昇した。その中でも3)「社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」は3.18から3.45の108.44%、5)「各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」は3.32から3.54の106.56%と大きく上昇している。新任教員も多い中、教育理念、教育目標は浸透しており、「学生及び保護者や他施設への周知」への取組みの活動が評価上昇となったと考える。

### (2) 学校運営

学校運営の大項目平均は、3.07から3.12の前年対比101.62%であり、小項目8項目中6項目が上昇した。下降した2項目は、10)「教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか」2.90から2.87の98.95%、11)「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備」3.35から3.26の97.34%であった。評価が3.0に満たないものは8)「運営組織や意思決定機能の明確化・有効性」2.87、9)「人事、給与に関する制度は整備されているか」2.96、10)「教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備」2.87、13)「情報システム化による業務の効率化」2.72であった。運営組織や意思決定機能は、規定等により明確にはされているが、有効に機能できておらず改善が必要と感じている。意思決定システムにおいての権限等を明確にすることが必要である。ICT利活用は進んでいるものの業務改善や時間管理としての活用に至っていないことが原因と考える。

### (3) 教育活動

教育活動の大項目平均は、3.18から3.21の前年対比100.94%で上昇しているが、小項目14項目中8項目が下降している。また3ポイント未満の項目は、24)「資格要件を備えた教員の確保」2.58、25)「法人内施設との連携、教員を育成及び確保するなどマネジメント」は2.54であり、2021年度より下降し低迷している。専任教員数が確保できていないことと支援体制が不十分であることが大きく影響したと考える。教員の人材確保は喫緊の課題であるが、教員間での連携協働し、互いに支援ができるような組織編成と教員個々が自己啓発、能力開発できるように教員キャリアラダーへの支援に取り組んでいく。

### (4) 学修成果

学修成果の大項目平均は、3.09から3.12の前年対比107.97%であった。28)「就職率の向上が図られているか」3.30から3.52の106.62%であった。また3ポイント未満の項目は、31)「卒業生の社会的な活躍および評価を把握」2.78、32)「卒業後のキャリア形成の効果を把握し学校の教育活動の改善に活

用」2.73 であり、継続して評価は低い。高度専門看護学科のホームカミングデイ、助産学科の同窓会等で卒業生からの情報により、卒業後の教育の成果や成長について把握する取り組みができた。しかし卒業後のキャリア形成の効果については、法人及びその他卒業生の就職先との連携を図り、教育活動を評価する視点を明確にして取り組む必要があると考える。

#### (5) 学生支援

学生支援の大項目平均は、3.12 から 3.28 の前年対比 105.12%であった。33)「進路・就職の支援体制」は 2.96 から 3.31 の 111.84%と大きく上昇した。入学時より、進路・就職活動等へのキャリア支援を学校としての取り組みの成果と考える。また 3.5 ポイント以上に 35)「学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか」3.58、36)「学生の健康管理を行う組織体制はあるか」3.59 であった。その他 3 ポイント以下の項目は 40)「卒業生の支援体制」2.96、のみとなった。卒業後のキャリアアップや研究活動に対する支援は学校として行えていない。

#### (6) 教育環境

教育環境の大項目平均は、3.33 から 3.40 の前年対比 102.1%であった。43)「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備」は 3.38 と僅かに低下していた。Wi-Fi 問題の改善と施設の整備、修繕が必要となっていることの意味が聞かれている。45)「防災に対する体制は整備し適切に運用されているか」は 3.08 から 3.52 の 114.2%と大きく上昇した。大規模災害に備えての防災講話と訓練は実施され、備蓄やマニュアル作成など学校独自の BCP に取り組んでいきたい。

#### (7) 学生の受入れ募集

学生の受入れ募集の大項目平均は、3.56 から 3.61 の前年対比 101.42%であった。コロナの感染対策で広報活動が縮小されていたが、今年度は、ホームページのリニューアル、全教職員協力体制のもとオープンキャンパスや高等学校でのガイダンスに精力的に活動した成果と考える。

#### (8) 財務

財務の大項目平均は、3.24 から 3.41 の前年対比 108.40%であった。49)「中長期的に学校の財務基盤が安定しているといえるか」は 2.92 と低い。18 歳人口の減少による、学生誘致が難しくなっているが、学生からの授業料が 9 割の収入を占め財政の基盤となるため、引き続き教職員一丸となった学生誘致に取り組む必要がある。光熱費や消耗品の削減には取り組んでおり進捗を教職員で共有している。しかし財務に関する回答の約半数は「わからない」であるため、収支報告以外についても共有し、改善できるようにする必要がある。

#### (9) 法令などの遵守

法令等の遵守の大項目平均は、3.52 から 3.57 の前年対比 101.42%であった。54)「個人情報保護の対策」は 3.62 から 3.25 と下降した。情報リテラシーに関する学習の機会を持ち、個人情報保護に関する取り扱い方針・規定を定めて運用しているが、時に学生の問題となる行動もあるため個人情報管理についての啓発、教育を強化する必要がある。

## (10) 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献の大項目平均は、2.83 から 3.19 の前年対比 112.72%であった。57)「学校教育資源や施設を活用」は 0.6 ポイント上昇、58)「学生ボランティア活動を推奨」は 0.34 ポイント上昇した。本校理念に『地域を基盤とし多様な文化を理解・・・』とある。ここ数年は、感染予防行動の一環とし参加困難な状況もあったが、今年度は、コロナ感染症も 5 類へ移行したこともあり、地域連携への取り組みは急務であると考え、法人地域活動“まちかど保健室”や、“健康フェア”への参加に努めた結果と考える。地域社会での活動を通し、学生自身が市民としての責任感を自覚し、自己のあるべき姿を考える機会になればと考えている。

## (11) 国際交流

国際交流の大項目平均は、2.12 から 2.70 の前年対比 124.42%と大きく上昇した。

高度専門看護学科は、コロナ禍により中止していた「キャリア選択Ⅱ」の海外研修を今年度初めて執行し、学生 21 名と引率教員 3 名が参加した。アメリカ ロサンゼルス総合病院、障害者トレーニングの施設、リハビリ施設の見学や日本人看護師のセミナーなどを受講し、海外における保健医療福祉制度を学び、異文化交流の中で学生自身が新たな自己の可能性に気づくことができた。学生による学びの発表会や教員による学習成果の報告なども行い、新たな教育課程編成の取り組みが評価されたと考える。